

プロジェクト名：アラブ首長国連邦砂漠緑化研究協力

(調査期間：1985年9月～10年、担当業務：砂防、灌漑、育種、施設園芸等)

調査背景

砂漠化の進行は、地球規模における深刻な環境問題であると同時に食糧問題ともなっている。砂漠地帯を抱える途上国においては砂漠緑化や食糧確保が重要な課題であるにも関わらず、過酷な気象条件(高温、乾燥)に加えて砂漠地帯に特有の環境条件(移動砂丘、塩類集積)が大きな障害となっている。早くから砂漠農業研究に取り組み、中近東砂漠地域での研究計画を進めようとしていた静岡大学農学部がアラブ首長国連邦大学農学部と接触の結果、共同研究の機運が生まれ、乾燥地農業改善のための基礎研究を JICA ベースで実施する事となった。実際には、アラブ首長国連邦大学農学部附属農場において、両大学からのスタッフから成る研究チームが10年間に渡り各種試験研究活動を実施した。従って、アラブ首長国連邦における農業技術の改善に対する貢献だけでなく、乾燥地農業分野の研究能力の向上も期待された。

調査概要

当初の5年間は「砂丘の固定並びに節水、塩水灌漑下における作物生産の向上」を中心とした基礎的研究を実施した。具体的には「砂丘固定及び砂防樹種」、「灌漑と土壌保水性並びに作物栽培法」、「適応作物及び樹木の選定」の3つの研究テーマの下で、研究計画の立案、試験区の設定、緑化及び栽培試験の実施、各種指標の計測、結果の解析、報告書の作成等の作業を共同で実施した。一部の報告書は、適切な学術雑誌にも投稿された。湾岸戦争による中断期間があったものの、その後は研究テーマを砂丘固定と施設園芸に絞り込んで、直接農業生産に結びつくような試験研究活動が継続された。

担当事項

- 砂丘固定及び砂防樹種に関する研究。
- 灌漑と土壌保水性並びに作物栽培法に関する研究。
- 適応作物及び樹木の選定に関する研究。
- 新しい施設園芸技術の導入に関する研究。
- 上記試験研究における研究計画の立案、試験区の設定、緑化及び栽培試験の実施、各種指標の計測、結果の解析、報告書の作成。

